

M 6.2, 震源地:鳥根県東部, 深さ約10km, 2026/01/06 10:18頃発生 (気象庁発表)

震度の分布

最大観測震度5強(*)

主要都市の推定震度

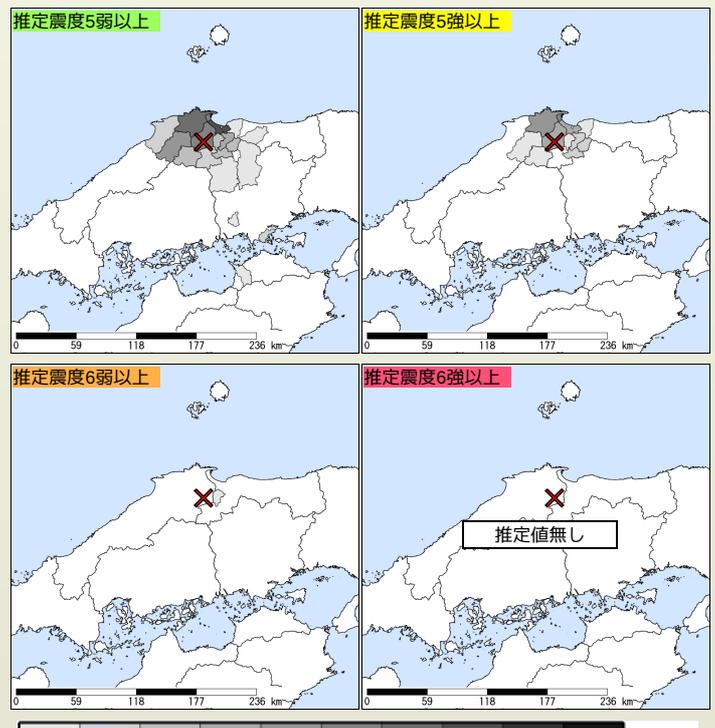
(都市の最大観測震度と人口を考慮して掲載)

最大(*) 観測震度	推定震度頻度分布	市区町村名	全人口: 昼間 (人)	震央距離 (km)
	1 2 3 4 5-5+ 6-6+ 7			
5強		鳥取県境港市	33,000	27
5強		鳥根県安来市	38,000	15
5強		鳥根県松江市	210,000	23
5弱		鳥取県米子市	150,000	18
4		岡山県倉敷市	450,000	94
4		広島県福山市	450,000	91
4		愛媛県松山市	500,000	166
4		香川県高松市	440,000	131
4		岡山県岡山市北区	370,000	96
3		広島県呉市	230,000	130
3		山口県山口市	200,000	201
3		高知県高知市	320,000	195
3		広島県広島市中区	250,000	122
3		徳島県徳島市	280,000	184
3		兵庫県姫路市	530,000	145
3		大阪府豊中市	330,000	214
3		大阪府高槻市	290,000	225
3		大阪府大阪市淀川区	220,000	217
3		兵庫県西宮市	410,000	204
3		兵庫県加古川市	230,000	160

解析開始時点(2026/01/06 10:29:03)で収集されている防災科研K-NET, KIK-net, 気象庁, 地方公共団体震度計の計測震度データを利用。(*) 気象庁発表の情報と一致しない場合がある。一部正式な震度観測点ではない観測点を含む。暫定的な震度値を含む。丸印は観測、塗りつぶしは推定データ。×印は震央位置。他の図表も同様。

最大観測震度は、各市区町村内で観測された最大震度。観測された計測震度を250mメッシュで補間し、市区町村ごとに推定震度頻度分布を作成した。報開始時刻が9:00-18:59のとき昼間人口、19:00-8:59のとき夜間人口を示し、平成27年国勢調査、平成26年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を二桁精度による四捨五入した。震央距離は震央から各市区町村中心部までの距離。

行政区ごとの震度遭遇人口 (各震度階級の揺れに遭遇した人口を考慮して掲載)



行政区名	震度5弱以上 遭遇人口	震度5強以上 遭遇人口	震度6弱以上 遭遇人口	震度6強以上 遭遇人口
全国	200,000	50,000	1,000未満	
鳥取県	200,000	50,000	1,000未満	
鳥取県米子市	100,000	5,000		
鳥取県倉吉市	1,000未満			
鳥取県境港市	20,000	20,000		
鳥取県西伯郡日吉津村	1,000			
鳥取県西伯郡大山町	1,000	1,000未満		
鳥取県西伯郡南部町	2,000	1,000	1,000未満	
鳥取県西伯郡伯耆町	10,000	2,000		
鳥取県日野郡日南町	2,000			
鳥取県日野郡日野町	5,000	1,000		
鳥取県日野郡江府町	2,000	1,000		
鳥根県	100,000	20,000		
鳥根県松江市	100,000	10,000		
鳥根県出雲市	1,000			
鳥根県安来市	20,000	5,000		
鳥根県雲南市	10,000	1,000未満		
鳥根県仁多郡奥出雲町	2,000	1,000未満		
岡山県	2,000			
岡山県玉野市	2,000			
岡山県新見市	1,000未満			
岡山県真庭市	1,000未満			
岡山県小田郡矢掛町	1,000未満			
香川県	1,000			
香川県三豊市	1,000			

補間した250mメッシュの推定震度分布と、250mメッシュに細分化した平成27年国勢調査、平成26年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を重ね合わせ、各行政区の震度遭遇人口を推計した。

全国および震度遭遇人口の多い都道府県と市区町村について掲載。震度遭遇人口が1~999人の場合には1000未満と表示。全国、都道府県の値は、市区町村の値の合計と必ずしも一致しない。

この地域で起こった過去の主な被害地震

発生日	地震名	M	被害
880	出雲	7.0	社寺・民家の破損が多く、余震は10月22日に至るも止まらなかった。この日京都でも強く感じたというがこの地震とは無関係で、規模ももっと小さかったとする説がある。
1710	伯耆・美作	6.5	河村・久米両郡(現鳥取県東伯郡)で被害最大。山崩れ人家を潰す。倉吉・八橋町・大山・鳥取で被害。死多数。
1711	因幡・伯耆	6.3	因伯両国で家380潰れ、死4。山崩れや田畠の被害があった。
1835	石見	5.5	鳥根県高畑村で石地蔵・石塔・墓石などが倒れ、蔵の壁が破れ、石垣が崩れた。
1872	石見・出雲(浜田地震)	7.1	1週間ほど前から鳴動。当日には前震もあった。全体で全潰約5千。死約550。特に石見東部で被害が多かった。海岸沿いに数尺の隆起・沈降がみられ、小津波があった。
1943	鳥取県東部	6.2	翌日にもほぼ同じ所に再震(M6.2)。両方で傷11、建物倒壊68、半壊515。
1943	鳥取県東部(鳥取地震)	7.2	鳥取市を中心に被害が大きく、死1083。家庭全壊7495、半壊6158。鹿野断層(長さ8km)、吉岡断層(長さ4.5km)を生じた。地割れ・地変が多かった。
2000	鳥取県西部(鳥取県西部地震)	7.3	陸域の横ずれ断層型地殻内地震。鳥取県境港市、日野町で震度6強(計測震度導入後初めて)。傷182。住家全壊435、半壊3101。M7級の地殻内地震にもかわらず活断層が事前に指摘されておらず、明確な地表地震断層も現れなかった。

出典：国立天文台「理科年表 平成29年」、丸善出版(2016)。一部表現を割愛

J-SHISから公表している地震ハザード情報

防災科研が公開するJ-SHISでは、ある地点に対し影響を及ぼす全ての地震を考慮し、その地点が大きな地震動に見舞われる危険度、すなわち地震ハザードを評価しています。(2024年地震ハザード評価)

50年間超過確率2%の計測震度分布 再現期間50000年相当の計測震度分布

